

## その他の病院についての説明資料

- |             |             |
|-------------|-------------|
| ① ニュー天草病院   | P 1 ~ 1 3   |
| ② 天草厚生病院    | P 1 5 ~ 2 1 |
| ③ 天草セントラル病院 | P 2 3 ~ 2 9 |
| ④ 福本病院      | P 3 1 ~ 3 9 |
| ⑤ はまゆう療育園   | P 4 1 ~ 5 6 |

平成 31 年 (2019 年) 3 月 熊本県天草保健所

# ニュー一天草病院が担う役割について

平成31年1月 ニュー一天草病院

## 【自施設の現状と課題】

### 自施設の基本方針

- ①旧本渡市及び周辺地域における、慢性期医療及び介護事業を行い、地域医療、介護を担う病院として位置付けます。
- ②在宅医療に関しては、必要に応じ訪問診療に取り組むと共に、当該地域の医療機関と連携し、緊急入院等が発生した場合の受け入れ病院としての役割を担う。
- ③市の保健担当部署と連携し、地域住民の健康増進に取り組むとともに、地域住民の長期療養が必要な方へ、医療、介護を提供する。

## 【自施設の現状と課題】

### 自施設の診療実績

#### 【入院基本料等】

療養病棟（医療型）療養病棟入院料 1	88床
療養病棟入院料 2	44床
療養病棟（介護型）介護療養型医療施設	48床
合計	180床

#### 【施設基準等】

- ・療養病棟療養環境加算（Ⅰ）
- ・入院時食事療養（Ⅰ）・入院時生活療養（Ⅰ）
- ・脳血管疾患等リハビリテーション料（Ⅱ）
- ・運動器リハビリテーション料（Ⅱ）
- ・がん患者リハビリテーション料
- ・がん治療連携指導料

# 1 現状と課題 3/5

## 【施設基準等】

- ・ 感染防止対策加算 2
- ・ C T 撮影（16列以上64列未満マルチスライス C T）

## 【平成 2 9 年度実績】

- ・ 療養病棟（医療型）

療養病棟入院料 1 延患者数	31,570人
1日平均入院患者数	86.5人
病床利用率	98.3%
- 療養病棟入院料 2 延患者数 15,574人
- 1日平均入院患者数 42.7人
- 病床利用率 97.0%
- 平均在院日数（年平均） 250日
- ・ 療養病棟（介護型）

介護療養型医療施設延患者数	17,372人
1日平均入所患者数	47.6人
病床利用率	99.2%

# 1 現状と課題 4/5

## 【自施設の職員数】

（医師、看護職員、その他専門職、事務職員等）

医師 常勤 5名（内科系4名・外科系1名）

非常勤 2名（内科系2名）

### その他職員

・薬剤師	2名	・看護師	56名
・放射線技師	1名	・准看護師	12名
・検査技師	1名	・介護福祉士	7名
・理学療法士	3名	・看護補助者	27名
・作業療法士	2名	・言語聴覚士	1名
・管理栄養士	2名	・栄養士	3名
・調理師等	9名	・事務職員他	13名

合 計 144名

## 【自施設の特徴】

- ・ 当院は、旧本渡市及びその周辺地域における慢性期医療中心の病院であり、地域医療支援病院である天草地域医療センター、天草中央総合病院及び周辺地域の医療機関と連携し、急性期を過ぎた長期療養が必要な患者さんを受け入れている。

## 【自施設の政策医療】

- ・ 5 疾病について  
急性心筋梗塞、脳卒中等急性期は当院では対応できない為地域医療支援病院である天草地域医療センター等と連携し対応している。また、糖尿病については専門医による専門外来を行っている。
- ・ 5 事業について  
現在、当院では5事業は実施していない。

## 2 今後の方針

### 【地域において今後担うべき役割】

#### 基本方針

- これまで同様に、天草地域医療センター、天草中央総合病院及び地域周辺の医療機関と連携し、長期療養が必要な患者さんを受け入れ、地域住民へ慢性期医療の提供を継続する。  
(療養病棟 132床 維持)
- 介護事業に関しては、「日常的な医学管理が必要な重介護者の受け入れ」や「看取り・ターミナル」等の機能と「生活施設」としての機能を考慮し、介護療養型医療施設を介護医療院へ転換を行う。

### 3 具体的な計画

#### (1) 今後提供する医療機能に関する事項

#### 【① 4 機能ごとの病床のあり方 その1】

単位：床

病床機能	2018年(平成30年)	2025年(平成37年)
高度急性期		
急性期		
回復期		
慢性期	132	132
その他(介護療養型医療施設)	48	0
合計	180	132

### 3 具体的な計画

#### (1) 今後提供する医療機能に関する事項

##### 【① 4 機能ごとの病床のあり方 その2】

###### 【医療病棟】

- ・ 今後も高齢化が著しく進む地域もあり、高齢者世帯、独居世帯もさらに増加すると考えられ為、今後も以下の病床を継続する。

療養病棟入院料 1 (2つの病棟 44床×2) 88床

療養病棟入院料 2 (1つの病棟 44床) 44床

###### 【介護病棟】

- ・ 要介護者に対し、「長期療養のための医療」と「日常生活上の介護」を一体的に提供する施設を考え、介護療養型医療施設48床を介護医療院48床へ転換を行う。

(平成31年度中に転換予定)

### 3 具体的な計画

#### (1) 今後提供する医療機能に関する事項

##### 【②診療科の見直し】

	現時点 ( 30年 1月時点)	2025年	理由・方策
維持	内科・糖尿病内科・漢方内科・リハビリテーション科	内科・糖尿病内科・漢方内科・リハビリテーション科	現状の診療科を維持
新設			
廃止			
変更・統合			

### 3 具体的な計画 (2) 数値目標

	現時点( 2018年 12月時点)	2025年
①病床稼働率	98.5%	98%以上
②紹介率	71.4%	数値目標なし
③逆紹介率	31.4%	数値目標なし

### 3 具体的な計画

#### (3) 数値目標の達成に向けた取組みと課題

##### 【取組みと課題】

- 慢性期医療である療養病棟は、現在、療養病棟入院料1と療養病棟入院料2の病棟がある。今後は、地域の医療機関等と連携を強化し、医療の必要が高い患者の受け入れを迅速に行い、療養病棟全体で医療区分2以上の患者を8割以上確保して、療養病棟入院料1の病棟に統一する。
- 現在は、医師、看護職員、事務職員などの職員は確保できているが、介護職、看護補助職、調理員などの職種の確保困難な状況となっている。
- 介護医療院への転換に向けて、今後地域住民及び各種団体などとの連携の体制を構築する。

## 4 その他特記事項

### 【介護医療院】

- ・平成31年7月1日開設を目標に作業中。

【統一様式】

# 天草厚生病院が担う 役割について

平成30年12月天草厚生病院

# 1 現状と課題

## 【自施設の現状と課題】

### 現状

医療療養病床（180床）

天草厚生病院を中心に、下記の関連施設等と連携し運営を行っている。

- ・ 介護老人保健施設（80床）
- ・ 住宅型有料老人ホーム（51人）
- ・ 養護老人ホーム（50床）
- ・ 上天草在宅介護センターの受託運営
- ・ 居宅支援事業所、通所サービス

### 課題

- ・ 地域包括ケアシステムの一翼を担う
- ・ 医療、介護他多職種の人材確保が喫緊の課題

## 2 今後の方針

### 【地域において今後担うべき役割】

- 事業の継続を行う事で  
地域包括ケアシステムの一翼を担い、地域貢献行う
- 安定した雇用の場を提供する

### 3 具体的な計画

#### (1) 今後提供する医療機能に関する事項

#### 【① 4 機能ごとの病床のあり方 その1】

単位：床

病床機能	2018年(平成30年)	2025年(平成37年)
高度急性期	—	—
急性期	—	—
回復期	—	—
慢性期	180	180
その他	—	—
合計	180	180

### 3 具体的な計画

#### (1) 今後提供する医療機能に関する事項

##### 【②診療科の見直し】

	現時点 (2018年12月時点)	2025年	理由・方策
維持	現状診療科目	同左	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 地域包括ケアの必要</li><li>・ 高齢者人口の微増</li><li>・ ニーズに対応する</li></ul>
新設	—	—	—
廃止	—	—	—
変更・統合	—	未定	<ul style="list-style-type: none"><li>・ ニーズの変化に対応</li></ul>

### 3 具体的な計画 (2) 数値目標

	現時点( 2018年 12 月時点)	2025年
①病床稼働率	98.7 %	現状と大差ないと思われる
②紹介率	77.5%	不明
③逆紹介率	25.8%	不明

### 3 具体的な計画

#### (3) 数値目標の達成に向けた取組みと課題

##### 【取組みと課題】

- 当院関連する施設との連携
- 他医療機関、介護、在宅等各事業所との連携
- 地域包括ケアシステムの継続を行う

【統一様式】

# 天草セントラル病院が担う 役割について

平成30年12月天草セントラル病院

# 1 現状と課題

## 【自施設の現状と課題】

### 現状

医療療養病床（302床）

天草セントラル病院を中心に、下記の関連施設と連携し運営を行っている。

- ・ 介護老人保健施設（70床）
- ・ 軽費老人ホーム（50人）
- ・ 地域密着型特別養護老人ホーム（29人）
- ・ 北地域包括支援センターの受託運営
- ・ 訪問看護、介護、居宅支援事業所、通所サービス

### 課題

- ・ 地域包括ケアシステムの一翼を担う
- ・ 医療、介護他多職種の人材確保が喫緊の課題

## 2 今後の方針

### 【地域において今後担うべき役割】

- 事業の継続を行う事で  
地域包括ケアシステムの一翼を担い、地域貢献行う
- 安定した雇用の場を提供する

### 3 具体的な計画

#### (1) 今後提供する医療機能に関する事項

#### 【① 4 機能ごとの病床のあり方 その1】

単位：床

病床機能	2018年(平成30年)	2025年(平成37年)
高度急性期	—	—
急性期	—	—
回復期	—	—
慢性期	302	302
その他	—	—
合計	302	302

### 3 具体的な計画

#### (1) 今後提供する医療機能に関する事項

##### 【②診療科の見直し】

	現時点 (2018年12月時点)	2025年	理由・方策
維持	現状診療科目	同左	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 地域包括ケアの必要</li><li>・ 高齢者人口の微増</li><li>・ ニーズに対応する</li></ul>
新設	—	—	—
廃止	—	—	—
変更・統合	—	未定	<ul style="list-style-type: none"><li>・ ニーズの変化 に対応</li></ul>

### 3 具体的な計画 (2) 数値目標

	現時点( 2018年 12 月時点)	2025年
①病床稼働率	97.06 %	現状と大差ないと思われる
②紹介率	108.9 %	不明
③逆紹介率	37.3 %	不明

### 3 具体的な計画

#### (3) 数値目標の達成に向けた取組みと課題

##### 【取組みと課題】

- 当院関連する施設との連携
- 他医療機関、介護、在宅等各事業所との連携
- 地域包括ケアシステムの継続を行う

## 福本病院が担う役割について

H31.1 医療法人 社団福本会 福本病院

## 1現状と課題①

### 理念・基本方針

一日一日愛深く

地域住民の健康寿命の維持延伸に資する医療、介護を提供すること。

### 診療実績 施設基準

療養病棟入院基本料2  
 療養病棟療養環境加算1  
 脳血管リハビリテーション3  
 運動器リハビリテーション3  
 呼吸器リハビリテーション2  
 CT撮影及びMRI撮影  
 コンタクト検査料1  
 ニコチン依存症管理料  
 入退院支援加算2  
 認知症ケア加算2  
 がん治療連携加算  
 医科点数表第2章第10部手術  
 の通則5及び6(歯科点数表第  
 2章第9部

介護療養型医療施設 I 型療養機能強化型B  
 体制加算  
 理学療法 I  
 作業療法  
 その他(摂食機能療法)  
 若年性認知症患者受入加算  
 栄養マネジメント加算  
 療養食加算  
 サービス提供強化加算  
 介護職員処遇改善加算 I

診療実績 平均在院日数53.8人 (H30.8~H30.10)

### 職員数

医師(内科・整形・リウマチ)	10人
医師(眼科)	4人
薬剤師	1人
放射線技師	1人
検査技師	1人
理学療法士	3人
作業療法士	1人
言語聴覚士	1人
管理栄養士	1人
社会福祉士	1人
看護師	12人
准看護師	26人
看護補助者	37人
事務他	22人

### 施設の特徴

4機能のうちの慢性期病棟が中心

## 1現状と課題②

### 受託業務

	相手方	内容	対象者
健診受託	天草市・国保・社保 全国健康保険協会 保育園 小学校 高等学校 天草市	特定健診・施設健診 生活習慣病予防健診 しろはと保育園・久玉保育園 牛深小学校 牛深高等学校 3歳児検診	市民 社保加入者 先生・児童 児童 先生・生徒 子ども

## 2具体的な計画①

### 4機能ごとの病床のあり方

病床機能	2018(H30)	2025(H37)
高度急性期		
急性期		
回復期		
慢性期	35	35
その他(介護)	40	40
合計	75	75

※介護療養型医療施設 ※介護医療院

## 2具体的な計画②

### 今後提供する医療機能に関する事項

#### 診療科の見直し

	H30.12時点	2025年	理由・方策
維持	内科・整形外科・神経内科・リウマチ科・眼科・リハビリテーション科・胃腸科・循環器科	内科・整形外科・神経内科・リウマチ科・眼科・リハビリテーション科・胃腸科・循環器科	現状の診療科を維持
新設			
廃止			

## 2具体的な計画③

### 数値目標

	H30.10時点	2025年
①病床稼働率	76.50%	80%
②紹介率	-	-
③逆紹介率	-	-

### 3今後の方針①

#### 自施設の特徴

軽症の救急搬入受け入れ(主に通院中の方)など急性期の入院、また一部回復期リハビリ入院にも対応している。

併設するデイケア、デイサービス、グループホームとの連携が行いやすい環境である。

眼科手術(白内障手術、硝子体手術)に関して広域の患者様に対応している

専門医によるリウマチ専門外来を行っている。

認知症リーダー研修などを終えたスタッフを配置し対応している。

嚥下障害、摂食障害について言語視覚士を含むチームケアに取り組んでいる。

### 3今後の方針②

地域において今後担うべき役割

大きな変更はなく、日常の療養支援、急変時の対応、入院時の退院支援、看取りなど在宅医療に求められる医療機能を含めて維持、充実させていく。

介護療養病棟についてはH31年度介護医療院Ⅰ型への転換を予定している。

医療療養病床は変更なく継続する。

### 3今後の方針③

#### 今後の課題、問題点

- ・医師、看護、介護スタッフの安定した充足、特に若いスタッフの確保が困難である。
- ・受け皿が整備されていない状況で、必要とされる医療と診療報酬のギャップがあること（例えば急性期病棟退院時、在宅での生活は困難と判断されるが医療、介護の必要性がすくなく、かつ適当な施設がない場合）
- ・独居で家族が遠方である場合の退院支援

【統一様式】

# 重症心身障害児施設 はまゆう療育園 が担う役割について

平成31年 1月 重症心身障害児施設はまゆう療育園

# 1 現状と課題

## 【自施設の現状と課題】

### ■自施設の理念

「障害を持った子どもを抱いて 途方に暮れている母親の  
気持ちになって 園生に対し心のかよった療育を 科学  
的かつ適正に行う」

### ■基本方針

1. 医の原点は入園者への奉仕にあります。入園者第一主義に徹したサービスの向上に努めます
2. 入園者の安全には細心の注意をはらいます
3. 可能な限り各個人にあった適正な療育を行います
4. ノーマライゼーションの思想にのっとり 障害のある方も家庭で生活できるような地域社会をつくる為にお役に立ちます

## 1-2 現状と課題

### ■ 自施設の診療実績(届出入院基本料・認定施設・平均在院日数等)

#### ○ 事業内容

「診療科」 小児科・内科・精神科

生活保護法指定医療機関

「ベッド数」 170床(一般病床:110・療養病床:60)

「医療型障害児入所施設」 170床

「療養介護事業所」 170床 ※医療型障害児入所施設と一体的に実施

「短期入所事業所」 2床+空床型

障害福祉サービス

#### ○ 診療体制

入院(契約・措置)のみ。外来機能なし

#### ○ 届出入院基本料

西棟(60床) 障害者施設等入院基本料10:1

東棟(50床) 特殊疾患病棟入院料2(重心)

2階棟(60床) 療養病棟入院基本料1 20:1

# ○自施設の特徴

児童福祉法第35条、第3項の規定に基づいて設置された「重症心身障害児(者)施設」であると同時に、医療法に定められた「病院」である。

## ■重症心身障害児(者)

児童福祉法において「重度の知的障がい及び重度の肢体不自由が重複している児童」とされている。なお、重症心身障害者については、基本的には「重度の知的障害及び重度の肢体不自由が重複している18歳以上の者」である。

当院と同じ機能の病院は、全国に135施設(13,740床)あり、熊本県下においては4施設(551床)。天草圏域でも自宅で重症心身障害の家族を看ている家庭も多く、在宅支援として「地域療育支援事業所第2はまゆう療育園」を天草市に開設し、通園事業と相談支援を行っている。在宅から入所まで更には在宅介護者のレスパイト対応までと幅広く支援を行っている。

## ○安全の確保

当園の最優先の方針として、「安全の確保」「人権」が掲げられている。

特に、安全の確保においては「医療」「食事」「職場」「処遇」とすべての事について、細心の注意を払っている。

「安全の確保」の一つである防災体制については、当園では入所者と職員その家族や地域の方の受入れまで考えた整備を行っている。ここ数年の自然災害については天草地区は大きな被害は受けていないが、想定される災害について減災・防災につとめ、その中でも「備蓄体制」を強化している。また苓北町の「福祉避難所」の登録をしており、災害時の避難場所として開放し、地域住民の安全の提供も行っている。

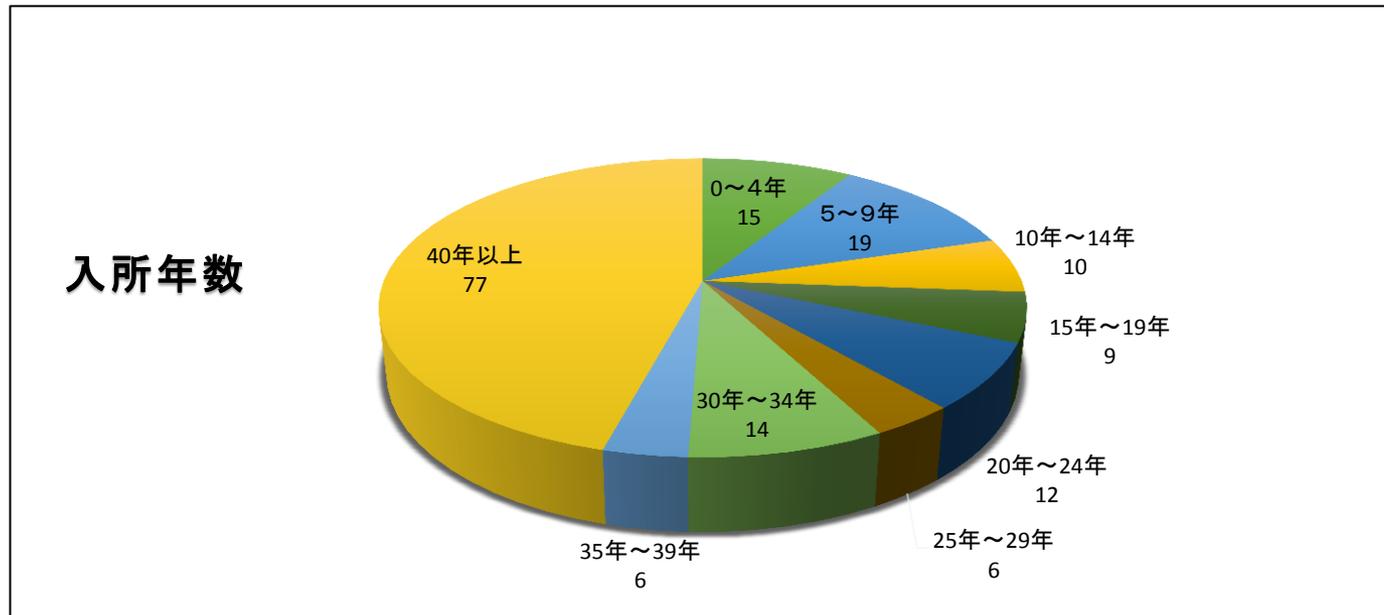
# 1-3 現状と課題

職 員 数			
			2019.1.1
職 種	人数	職 種	人数
医 師	19	生 活 指 導 員	29
再 計 ( 非 常 勤 )	(16)	生 活 支 援 員	43
薬 剤 師	2	再 計 ( 保 育 士 )	(17)
放 射 線 技 師	1	再 計 ( 介 護 福 祉 士 )	(18)
検 査 技 師	1	管 理 栄 養 士	2
臨 床 工 学 士	1	栄 養 士	6
理 学 療 法 士	4	調 理 師 ・ 員	9
作 業 療 法 士	4	事 務 員	12
言 語 聴 覚 士	4	洗 濯 ・ 清 掃	4
看 護 師	41	営 繕	4
准 看 護 師	30	そ の 他	2
社 会 福 祉 士	1	合 計	219

# 1-4 現状と課題

## ○利用者数の状況

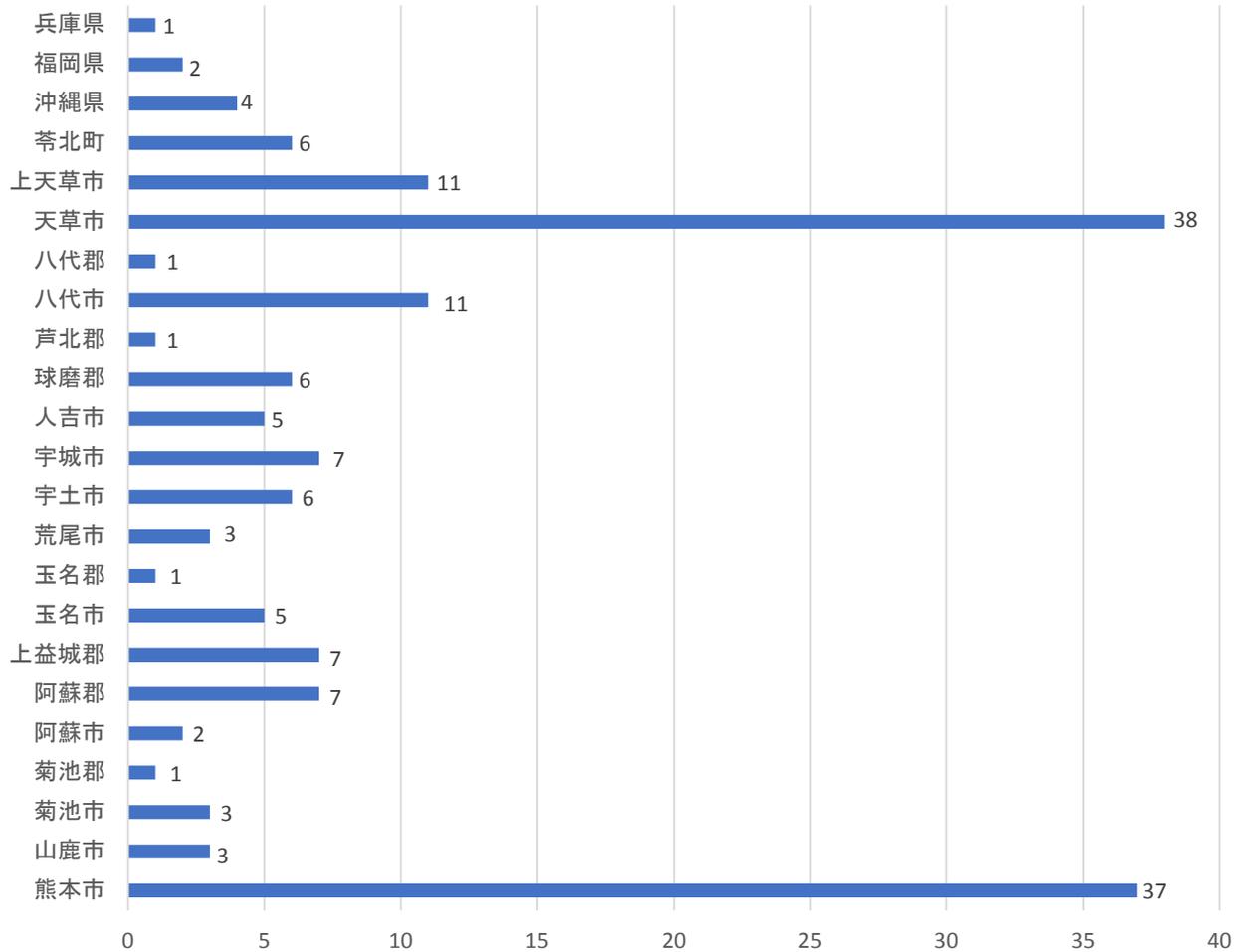
利用者の状況		平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度 (4月～12月)
延べ数	一般	39,530	38,770	39,466	29,782
	療養	21,735	21,863	21,513	16,256
利用率	一般	98.5%	96.6%	98.3%	98.5%
	療養	99.2%	99.8%	98.2%	98.5%



# 1-5 現状と課題

## 利用者(市町村別)

平成29年度末168名



# 1-6 現状と課題

## ○入所者の障害程度と棟別入所数

### 「横地分類 (改訂大島分類)」

2018.03.31

<知的発達>

E6	E5	E4	E3	E2	E1	E
0	0	0	2	0	2	簡単な計算可
D6	D5	D4	D3	D2	D1	D
2	0	3	2	0	9	簡単な文字・数字 理解可
C6	C5	C4	C3	C2	C1	C
0	0	3	2	2	3	簡単な色・数 理解可
B6	B5	B4	B3	B2	B1	B
1	2	13	3	3	14	簡単な言語理解可
A6	A5	A4	A3	A2	A1	A
0	10	7	24		55	言語理解不可

6.戸外歩行可 5.室内歩行可 4.室内移動可 3.坐位保持可 2.寝返り可 1.移動できない

<移動機能>

計 168

<特記事項>

C:有意な眼瞼運動なし

B:盲

D:難聴

U:両上肢機能全廃

TLS:完全閉じ込め状態

### 「横地分類(改訂大島分類)」とは？

重度の知的障害と重度の肢体不自由が合併した状態を定義づける為に、都立府中療育センターの大島氏により考案された分類法。(福祉施設の中で広く使用) その分類の項目数を増やし、具体性を持たせることにより障害区分の枠組みを明確にしたものが横地分類。

縦軸:知的発達

横軸:移動機能

特記事項

} 3項目で分類する。

病棟名	園児(者)数
西病棟	60人
東病棟	48人
2階病棟	60人
合計	168人

H21.4.1 西病棟 44床→66床、東病棟60床→44床(計164床)

H21.8.1 東病棟44床→46床(計166床)

H21.9.1 東病棟46床→50床(計170床)

# 1-7 現状と課題

## ○ 2017年度 入所状況

事例	生年月日	性別	入園月日	入園理由
1例	H5.〇〇.〇〇	女	H29.〇〇.〇〇	第2はまゆう利用者。かかりつけ病院に入院し退院後の在宅生活に不安。しばらく短期入所利用しその後入所となる。
2例	H28.〇〇.〇〇	男	H29.〇〇.〇〇	在宅より。重度障害児であり保育園の受け入れがない。母親は就労を希望されており、児童相談所と調整し入所となる。
3例	H19.〇〇.〇〇	男	H29.〇〇.〇〇	水難事故により重度障害。かかりつけ病院の連携室より退院後の入所先として入所希望。
4例	H18.〇〇.〇〇	男	H30.〇〇.〇〇	水難事故により重度障害。かかりつけ病院の連携室・児童相談所と調整し入所となる。

## ○ 2017年度 退所状況

事例	生年月日	性別	退園月日	退園理由
1例	S52.〇〇.〇〇	男	H29.〇〇.〇〇	死亡(在園期間:24年)
2例	S26.〇〇.〇〇	男	H29.〇〇.〇〇	死亡(在園期間:2年)
3例	S41.〇〇.〇〇	男	H30.〇〇.〇〇	死亡(在園期間:45年)

## 1－8 現状と課題

### 【自施設の現状と課題】

熊本県内の重心施設としては、天草下島に位置しておりアクセス面では不便さを感じる事も少なくない。しかし立地面においては長期療養できる良い環境であると自負している。苓北地区は寒暖差も少ない温暖な地域であり、施設内から望む富岡湾の眺望は利用者の心と体を和ませるものであり、天然温泉を利用した温泉施設も特色の一つである。

自施設は外来機能がない為、外来受診→入院という仕組みがない。空床が続く場合には、入所希望登録者をはじめ児童相談所や各市町村・施設や家族からの紹介や相談から入院に繋がっている。

地域連携としては熊本赤十字病院・熊本市民病院・天草地域医療センターなどの急性期の病院から、NICU管理の退院後に医療ケアが必要な子供たちの受け入れ先として、機能を請け負っている。

## 1-9 現状と課題

利用者については、平均年齢が42歳、最高年齢は80歳となっている。開所当初に比べ高齢化が進んでおり、病態的にも変化してきている。

新規入所者については、ここ数年事故後の後遺症により障害が残る児童が多い。また毎年医療も進み重い障害を持って生まれてくる子供たちも、助けられる状況となっている。

基本的には在宅で家族と一緒に生活することが一番であるが、家庭の事情や本人の医療的ケアの必要性により在宅生活が困難な方に対しては「入所」「短期入所」機能をもつ当園の役割は今後も重要であると思っている。

## 2 今後の方針

### 【地域において今後担うべき役割】

＜継続的な施設運営には「人材」が必要であり、医療従事者の確保について苦慮している。当園は長く勤める職員が多い職場であるが、毎年定年を迎える職員や、体調不良により退職する職員も多い。その為、働き方の多様化をもって、長く安心して勤める事ができる職場を目指している。

また、今後は地域的に人口減少が否めない為、特に介護人材の確保・看護人材の確保において「外国人労働者」の受入れも視野に入れ始めている。

この地で地域の人も外国の人も、障害を持つ人も共生共存できる社会を目指すのが当面の目標となっている。

### 3 具体的な計画

#### (1) 今後提供する医療機能に関する事項

#### 【① 4 機能ごとの病床のあり方 その1】

単位：床

病床機能	2018年(平成30年)	2025年(平成37年)
高度急性期	0	0
急性期	0	0
回復期	0	0
慢性期	170	170
その他	0	0
合計	170	170

### 3 具体的な計画

#### (1) 今後提供する医療機能に関する事項

##### 【②診療科の見直し】

	現時点 (2019年 1月時点)	2025年	理由・方策
維持	小児科・内科・精神科	小児科・内科・精神科	0歳児から高齢者まで、重度の障害を持つ方への対応は、社会福祉事業としても継続的に維持する方向。診療科については、グループ内の医療機関及び外部医療機関と連携しながら対応しており今のところ変更予定なし。
新設	—		
廃止	—		
変更・統合	—		

### 3 具体的な計画 (2) 数値目標

	現時点( 2019年 1月時点)	2025年
①病床稼働率	98.58%	98.82%
②紹介率	—	—
③逆紹介率	—	—